

第4章

学習塾のAI導入支援

——事業承継後の新事業をAI活用で展開



沼口 一幸

東京都中小企業診断士協会

AIが普及した昨今、小規模事業者（以下、事業者）の現状としては、取り組む必要性を直感的に感じているものの、具体的な活用方法がわからないといったケースが多いように思われる。

そこで本章では、筆者が支援に携わったAIを通常業務の中に組み込んだ事業者の事例を交えながら、中小企業診断士の役割を考察したい。

1. 支援者と事業者のAI導入支援

(1) AIの利活用を進めるためのポイント

作業の効率化や、その「質」を高めたいと考える事業者の多くは、「AIは何でもできる」と考えているように思われる。そして、業務の全体を俯瞰することなくAIの導入を進めようとするため、途中で断念するか、期待していた効果を出せないことが多いようである。

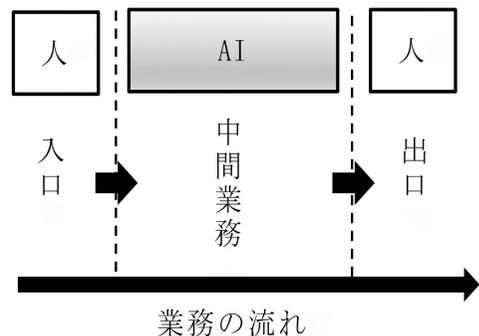
AI導入のポイントは、人とAIが担当する業務を明確に分けることから始まる。

①「人」と「AI」の業務を分けること

現時点では、すべての業務をAIに任せることは難しい。まず、業務の全体を俯瞰し、AIに任せたい内容を決める。

次に、人とAIの役割を明確にする。業務の始めと終わりは人が関与し、それ以外の業務をAIに任せることが、AI導入の第一歩になるだろう（図表1）。

図表1 人とAIの作業分担のイメージ



②AIを楽しむこと

AIの導入時は、事業者がそのサービスを途中で使わなくなることを避けるため、高いモチベーションの維持が必要になる。そこで、事業者が楽しみながらAIを使うことが大切になる。

AIを使って自分の業務が楽になったと体感することができれば、AIの活用を楽しめるようになるはずである。支援者側の対応として、事業者が最初から高い成果を求めないように留意することが、多くの場合、重要なポイントになる。

③AIを楽しんで使い続けること

初めて利用するサービスに慣れるまでは、個人差はあるが時間を要するものである。AIを使う場合でも、これと同様のことが言える。AIに任せると一度決めたら、ひたすら慣れるまで、同じ業務で反復して使い続けることが大切である。

継続して利用することで、事業者がAIの利活用に慣れ、学習効果が高まる。AIの効果を実感し、楽しんで使い続けることができるようになる。その結果、業務の効率化や、「質」の高い仕事をAIが担当しているようになっていくことが期待される。AIに任せた業務が円滑に進められるようになったら、次のAI利活用について検討を行う。

先ほど記載したことと同様の流れで、業務の始めと終わりには人が関与し、それ以外の内容をAIに任せる仕組みの構築が可能となる。この構築した仕組みに沿った業務を続けることで、経営資源の限られる事業者の時間が捻出されるようになるだろう。捻出された時間を新たな取組みなどに充当することで、持続的な経営の実現が期待される。

2. AI導入の支援事例

以降、事業承継とともにAIの導入に取り組んだ事業者の事例をもとに、そのポイントについて解説する。

(1) 事業者の概要

武蔵義塾は、現代表の斉藤征孝氏が平成元年（1989年）に創業した学習塾である。埼玉県蕨市立中央小学校の近くに位置する住宅街の中で、親しみやすい個別自立学習指導を行っている。

個別・少人数指導体制のもと、主に中学生を対象に、塾生一人ひとりが自主的に勉強する姿勢を育むことを目指した指導を実践している。地域に密着し、子どもとの適切な距離感による信頼関係の構築を図っている。

また、当塾をよく知る卒業生が講師として在籍しており、アルバイトであっても「質」の高い教育サービスを提供できるように工夫している。



アットホームな雰囲気の武蔵義塾
(画像提供：武蔵義塾、以下同じ)

(2) 塾経営のターニングポイント

征孝氏は、65～75歳までには自分の代で塾を閉める方向で廃業の時期を模索していた。ところが、令和5年（2023年）の初冬にある出来事が起こる。息子の伸弥氏から、塾の事業承継について相談を受けたのである。

征孝氏は、伸弥氏の事業を引き継ぎたいという申し出に対する嬉しさと同時に、毎年、新規の塾生を獲得しなければならない塾経営の難しさを知っているからこそその懸念、不安が混ざった複雑な心境で話を聞いていた。

家族会議の結果、令和6年（2024年）からは、後継者として伸弥氏が新たに塾の経営に加わり、70歳となった征孝氏、アルバイト講師4名の体制で個別自立学習指導の新たなスタートを切ることになった。

伸弥氏は大学卒業後、教育関連のITサービスを提供する会社に勤務しており、在職中は主に学校教育現場での業務を経験していた。「教育」に対する関心が高く、新たな塾の特徴として、その経験がIT化を含めた塾経営に生かされることになった。

(3) Gammaを利用したホームページの構築

征孝氏と伸弥氏は、事業継続の観点から既存事業の強化と新たな事業展開を模索していた。安定した塾生を獲得するため、伸弥氏が中心となって学童保育型学習塾の事業を令和7年（2025年）4月から始めることになった。



経営革新計画の認定書を掲げる伸弥氏（左）と征孝氏（右）

筆者は本事業が塾としての新たな取組みに該当することから、経営革新計画の提案を行った。その提案に対し、伸弥氏が中心となって計画書の策定を行い、筆者の支援を受けながらその認定を受けるに至る。

策定した計画の具体的な取組みの1つとなる販路開拓では、AIの導入とその利活用の面で実現可能性の視点から慎重に検討を続けた。

① Gammaの導入

伸弥氏は学童保育型学習塾を始めるにあたり、リアルタイムにホームページの情報を更新する必要性を感じていた。筆者は、伸弥氏が考えている取組みと、プレゼンテーション資料やホームページなどのデザインを生成することに優れている生成AIであるGammaとの相性が良いと考えた。新事業を進めるにあたり、AIの導入とその利活用は、事業承継を進める伸弥氏にとっては自然の流れだった。

導入当初は、Gammaでホームページの生成ができるのかといった懸念はあったものの、伸弥氏のITリテラシーの高さと、持ち前の熱意でデザインのクオリティを落とさず、リアルタイムで情報発信ができる仕組みを構築することができた。



Gammaで構築したホームページ

② Gammaの導入ポイント

伸弥氏は、Gammaで学童保育型学習塾のホームページを構築するという目標を明確に定めた。Gammaにホームページの作成を任せるにあたり、作業の入口となる学童素材を事前に集めた。そして、作業の出口となるホームページの構築では、保護者の目線でそのデザインにこだわった。

伸弥氏は、作業の始めと終わりを明確に定めたことで、ホームページの構築をGammaに任せ、情報発信がスムーズにできるようになった。これ以降のページの追加作業などもGammaに任せられることができるようになり、既存のホームページ業者との打ち合わせなど、塾全体に関わるページの制作時間を捻出できるようになった。

(4) これからのAI利活用

Gammaの導入・利活用が進んだ伸弥氏は、征孝氏と相談をしながら、これからの塾経営にAIをさらに組み込むことを予定している。

①さらなるGammaの利活用

伸弥氏はGammaの機能を活用して、リアルタイムで塾生や保護者とのやり取りができるオンライン連絡帳の仕組みを構築した。これまで既存のコースでも使用していた紙の連絡帳に代わり、オンライン上で迅速かつ確実に情報交換ができる新サービスとなる。

このサービスによって保護者は自宅や外出

先からでも、子どもの学習状況や様子をすぐに確認することができ、安心感も高まることが期待される。

このオンライン連絡帳は、保護者など特定の利用者のみが閲覧できる設定で、写真や名前などの個人情報も安全に管理されている。セキュリティ面でも十分な対策が施され、安心して利用することができる。

今後は既存の通常コースでもGammaを活用し、講師がパソコンからその日の学習の様子や子どもの変化などを記録・共有できる仕組みへと、段階的に移行する予定である。保護者とのコミュニケーションをより密に行い、子ども一人ひとりの学びをより丁寧にサポートしながら満足度を高めたいと考えている。

2月1日(水)



項目	内容
出席状況	△(遅刻) 理由: 予防接種のため
入室・退室時刻	19時45分 / 19時45分
まなびタイム	パズル
おやつ	りんごジュース、おせんべい、パウンドケーキ
健康状態	体調良好
特記事項	明日のテストを忘れずに持ってきてください
保護者様へのコメント	今日は昨日に引き続き、算数パズルを取り組んでいました。 楽しんでいる様子で、宿題のやりかたもスムーズに理解し、うまくできると褒められると嬉しそうです。

Gammaで構築した連絡帳のイメージ

②そのほかのAI利活用

伸弥氏は現在、業務の中にChatGPTを取り入れている。チラシデザインの原案や写真からイラストを生成しているほか、高校生英語のテキストや模試の内容を読み込ませ、塾生用の問題を作成している。試行錯誤しながらあらゆる業務の場面でAIを使い、今まで要していた作業時間を短縮しながら、業務の「質」を高める工夫をし続けているのだ。

③学習塾の挑戦は続く

現在、伸弥氏は征孝氏の指導のもと、事業承継を進めている。AIの活用によって捻出した時間を子どもたちと接するサービスに充てることで、子どもたちと保護者の満足度向上を図り、塾経営の安定に向け邁進している。

この夏、
分かった瞬間が未来を変える。
武蔵義塾の
小学生 中学生
夏期講習
7/22(火) 開講!!
あなたの「分かった」を応援します!
35年以上の信頼と実績
豊富な指導経験により、生徒の理解度に応じた柔軟な学習サポートを提供します
申込時、Amazonギフトカード
チラシご持参で 1,000円分
プレゼント!
体験授業も
2日間無料受付中!!
丁寧な個別自立学習指導で、生徒一人ひとりに寄り添い、確かな学習向上を支えます
最大1対3の個別指導
個人塾だからできる寄り添いサポート
個人塾ならではのきめ細やかな対応で、ご家庭のご要望にも丁寧に対応します
わかるって、たのしい!
わかるからやる気になる武蔵の個別自立学習指導
個別指導 武蔵義塾
Tel. 048-447-0278
受付 (日・祝除く 13:00~22:00)
ホームページ 武蔵義塾 で検索
公式LINE
詳細はこちらから⇒
「武蔵義塾 夏期講習」
で検索してください!
運営コースの紹介・中間テスト
結果速報はウラ面へ⇒

原案をChatGPTで作成した夏期講習のチラシ

3. 事業者のAI導入支援のまとめ

以上、AI導入の支援事例を紹介した。事業者のAI導入では、業務の全体を俯瞰し、必ず業務の始めと終わりの部分は人が関与する。AIに任せる内容を決めたら、成果のハードルを高く設定しないように留意しつつ、事業者が楽しく使い続ける仕組みを検討する。

事業者が高いモチベーションを維持しながら、途中であきらめることなくAIを使い続けられるような側面的なサポートをすることが、中小企業診断士を含めた支援者の役割として期待されている。

沼口 一幸

(ぬまぐち かずゆき)

2015年中小企業診断士登録。「動機づけ」を意識した、経営者に寄り添った支援を心がけ、事業承継・経営戦略策定支援のほか、新たな事業に取り組む中小・小規模事業者の支援を積極的に行っている。

